

東京大学大学院医学系研究科・医学部  
男女共同参画委員会主催  
第3回医学系キャリア支援のための交流会  
開催報告および参加者アンケート集計結果

## I. 企画の概要

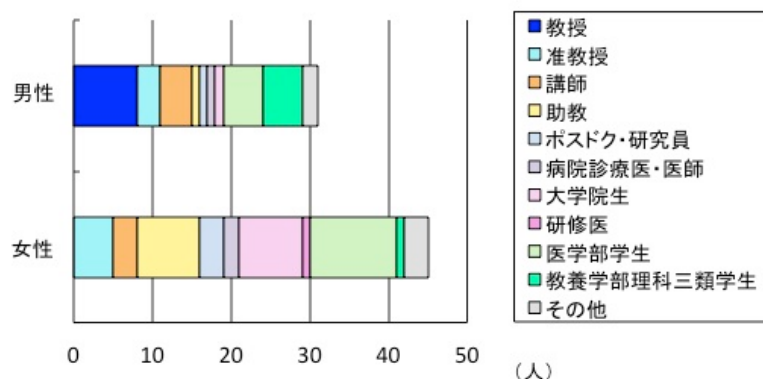
1. 目的：医学系研究科・医学部において、キャリア支援制度の紹介、ならびに、様々な医師・医学研究者が歩んできたキャリアの道、ライフイベントとの調和の事例の呈示や情報交換を行うことにより、  
①若手の医師・研究者・学生のキャリア形成に対する意識を高める。  
②様々なライフイベントを経験しながら前向きにキャリアを切り開く生き方への理解を深める。
2. 日時：2014年6月25日（水）  
第一部：16:40～18:00  
第二部：18:00～19:00（第一部、二部とも、途中入退場可）
3. 場所：東京大学医学図書館3階 333会議室・310会議室
4. 対象：・医学部（附属病院を含む）の学生・教職員  
・大学院医学系研究科の大学院生・教職員  
・教養学部理科三類学生（いずれも男女不問）
5. プログラム：  
第一部 16:40～18:00（333会議室） 司会 北中幸子・細谷紀子  
ご挨拶（矢富裕 副医学系研究科長・副医学部長、佐藤伸一 男女共同参画委員会委員長）  
キャリア支援制度の紹介（資料配布）  
現役医師・研究者の体験談とメッセージ  
「ワークとライフ ～様々な課題を乗り越えて～」  
・北 潔（生物医化学）  
・竹本 さやか（神経生化学）  
・澤田 良子（整形外科）  
・池本 博行（小児科）  
・石井 礼花（精神神経科）  
・森 壘（放射線科）  
全体討論  
中締めのご挨拶（門脇孝 医学部附属病院院長）  
第二部 18:00～19:00（310会議室）  
自由歓談・情報交換
6. 企画・運営：  
東京大学大学院医学系研究科・医学部男女共同参画委員会（委員長 佐藤伸一）  
第3回医学系キャリア支援のための交流会 実行委員会  
幹事：北中幸子、細谷紀子  
委員：飯塚陽子、柴田 彩、孫 大輔、竹本 さやか、田村 純人、野村 幸世、松本 陽子、安岡 潤子  
M4 宇仁 あさひ、清水 啓介  
M3 周 翰鵬・高岡 真梨子・西村 有未  
M2 高岡 由梨子・水次 弘子  
M1 秋山 果穂・大西 泰地・山口 修平

## II. 開催報告

### 1. 参加者数と属性（受付での記帳より）

職名(特任、客員を含む)	男性	女性
教授	8	0
准教授	3	5
講師	4	3
助教	1	8
ポスドク・研究員	1	3
病院診療医・医師	1	2
大学院生	1	8
研修医	0	1
医学部学生	5	11
教養学部理科三類学生	5	1
その他	2	3
計	31	45

(人)



### 2. 当日配布資料

資料1 プログラム (ポスター)

資料2 医学系研究科・医学部附属病院における主なキャリア支援制度 (育児・介護等)

資料3 アンケート調査用紙

### 3. 会の概要

開会にあたり、矢富裕副医学系研究科長・副医学部長より、日本の医学・医療をリードする本学が男女共同参画においてもリードできるような存在になるべきである旨の話があった。続いて、主催側を代表して、佐藤伸一男女共同参画委員会委員長より、委員会の最近の活動についての報告がなされた。

続いて、「ワークとライフ ～様々な課題を乗り越えて～」というテーマのもと、様々な分野・年代の6名の男女の医学研究者・医師から、それぞれのキャリア形成 (ワーク) と結婚・出産・育児・介護などの多様なライフイベントについての体験談と後輩へのメッセージが語られた。

一人目の演者の生物医化学の北潔教授からは、「私をとりまく女性達 —〇〇〇との闘い—」というタイトルで話があった。現在、家庭においては、90歳から0歳までの女性6人に囲まれてハッピーに過ごしていること、そして、「男女比1対1」の集合写真のスライドを映しながら、生物医化学教室では、女性研究者が良いデータを出し、良い論文を書いて活躍している旨の話があった。さらに、かつて研究室に在籍していた「イクメン」の男性教員のエピソードや、最近自身も孫を病院に連れていくなど、2人の娘の育児をサポートする「イクジイ」としての一面の紹介があった。最後に「男女が協力し合って、皆が良い仕事をできるように」とのメッセージが送られた。

二人目の演者の神経生化学の竹本さやか講師からは、「基礎医学研究者というキャリアと子育て」というタイトルで話があった。基礎医学には、自分の能力を最大限活用して生命の真理を明らかにするという魅力がある一方、世界との競争にさらされ、常に成果が求められる厳しさもあるが、恩師の言葉に励まされ、「清水の舞台から飛び降りるつもりで」基礎医学研究者としてのキャリアを歩み始めたことが紹介された。基礎研究者夫婦にしばしば見られるように、夫婦の勤

務地が離れている中、研究をしながら一人で育児を担う平日と夫の協力が得られる休日のライフスタイルを分け、仕事と育児の切り替えを工夫している日常が披露された。最後には、後輩に向け、「自身の特性に合う仕事を見つけ、時間をかけて実力をつけよう」とのメッセージが送られた。

三人目の演者の整形外科の澤田良子特任研究員からは、「ワークとライフ ～育児との両立という課題～ 整形外科医の場合」というタイトルで話があった。女性が少ない診療科の第2位である整形外科に所属しながら、出産の5週間前に最後の手術に立ち会い、産後16週間でフルタイムで復帰したこと、そして、復帰後は、外来・病棟・手術に加え、骨転移キャンサーボードという新しい領域の事務局医師として、女性ならではのコミュニケーション力を生かして業務をしていることが紹介された。現在の保育園事情や学会における託児所設置状況などの情報提供もあり、様々な支援サービスを利用しながら、夫や実家、上司や同僚の理解と支えにも恵まれて、育児をしながら、外科医としてのキャリアを順調に形成しつつあることが語られた。

四人目の演者の小児科の池本博行医師からは、「親の介護しながら医師として働けること」というタイトルで、本学医学部附属病院の「病院診療医」というポジションを活用しながら、親の介護と小児科医としての仕事を両立している現状についての話があった。東大病院での職務内容は、小児科外来を週12時間担当することであり、外来の仕事がある日とそうでない日でライフスタイルを分け、なるべく自身が親と一緒にいる時間を確保しつつ、家族と複数名の介護専門ヘルパーと連携しながら介護をしている日常が紹介された。苦勞している点として、介護専門ヘルパーの雇用費の出費が大きく、介護保険料と病院診療医の月給だけでは賄えないことが挙げられた。時間的・精神的ストレスも大きい中で、社会性を維持し、前向きに生きる姿が紹介された。

五人目の演者の精神神経科の石井礼花助教からは、「不妊治療と不育治療を行って得たもの」というタイトルで話があった。ワークにおいては、医学生時代から児童精神科医になりたいという目標を持ち、大学卒業後は、小児科での研鑽を経て、精神神経科・こころの発達診療部で活動しており、夢を叶えつつあることが紹介された。一方、ライフにおいては、不妊治療を経験したことが披露された。不妊治療には、頻繁な通院が必要で、予定が立てにくく、終わりも見えず、一時は追い詰められて仕事をやめようと考えたが、当時の上司（教授）に相談したところ、「やめなくて、休んで治療しなさい」と言われて勇気づけられたことが語られた。無事に子供を出産し、現在は毎日子供の成長を楽しみつつ、ワークとライフのバランスを模索中とのことである。

六人目の演者の放射線科の森壘講師からは、「子供は風邪をひきます」というタイトルで話があった。仕事においては、患者との距離（立ち位置）の多様性が魅力である放射線医学の中で、放射線診断医として活躍中であることが紹介された。ライフにおいては、子供の発熱により保育園からお迎えの依頼の電話がかかってきた場合にどのように対処するかが具体的に紹介された。病児保育の問題点として、かかりつけ医の診療情報提供書が必要であること、インフルエンザの場合は引き取ってもらえないこと、民間では費用が高いことが呈示された。祖父母の代から共働きは当たり前という家系で育ち、男女共同参画に関しては、性差別を撤廃し、業績などの評価基準を明確にし、性別によらず公平に評価される環境の構築を目指す必要があることが語られた。

全体討論では、主に学生から活発に質問が挙がった。進路選択に際し考慮すべきことや、退職後の職場復帰の現状、女性として働くことの実際、夫婦での家事の分担などの質問に対し、各演者の経験やそれに基づいたアドバイスが送られた。

第一部の締めくくりに、門脇孝医学部附属病院長より中締めの挨拶をいただいた。東大病院における男女共同参画の実現に向けて、復職支援センター的機能の整備、男性の育児休暇取得、病児保育・待機児童対策といった制度の改善に向けて努力がなされている旨の話があった。

第二部では、出席者の間で多数の輪ができ、活発な情報交換が行われた。

### III. 参加者アンケートの集計結果

回収数：38件（回収率50%）

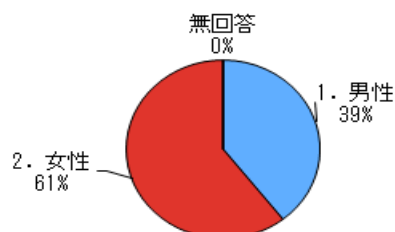
回収方法：当日参加者にアンケートを配布し、回答を記入いただいた上、退場時に回収した。

#### < 基本情報 >

##### A1) 性別

性別	n	(%)
1. 男性	15	39
2. 女性	23	61
無回答	0	0
計	38	

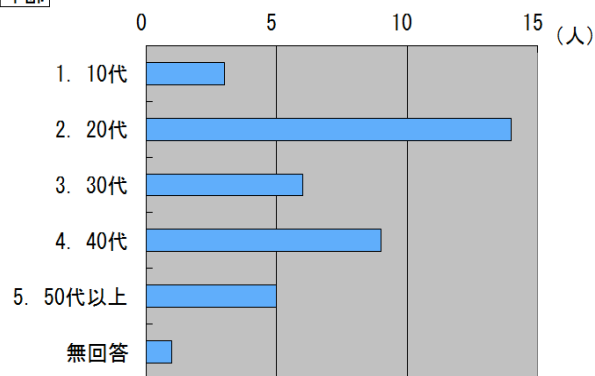
性別



##### A2) 年齢

年齢	n	(%)
1. 10代	3	8
2. 20代	14	37
3. 30代	6	16
4. 40代	9	24
5. 50代以上	5	13
無回答	1	3
計	38	

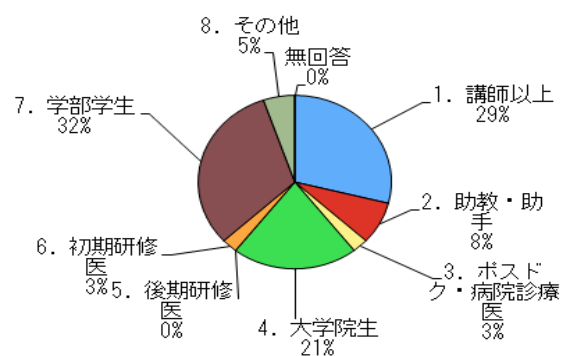
年齢



##### A3) 職種・職位（特任・客員を含む）

職種・職位	n	(%)
1. 講師以上	11	29
2. 助教・助手	3	8
3. ポスドク・病院診療医	1	3
4. 大学院生	8	21
5. 後期研修医	0	0
6. 初期研修医	1	3
7. 学部学生	12	32
8. その他	2	5
無回答	0	0
計	38	

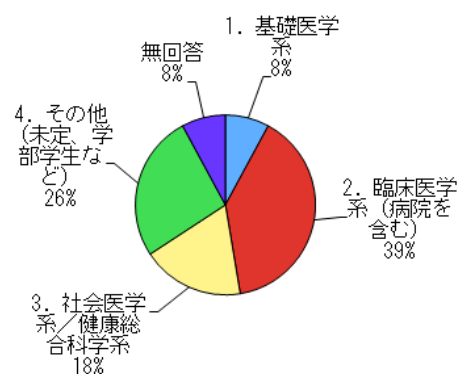
職種・職位



##### A4) 所属

所属	n	(%)
1. 基礎医学系	3	8
2. 臨床医学系（病院を含む）	15	39
3. 社会医学系／健康総合科学系	7	18
4. その他（未定、学部学生など）	10	26
無回答	3	8
計	38	

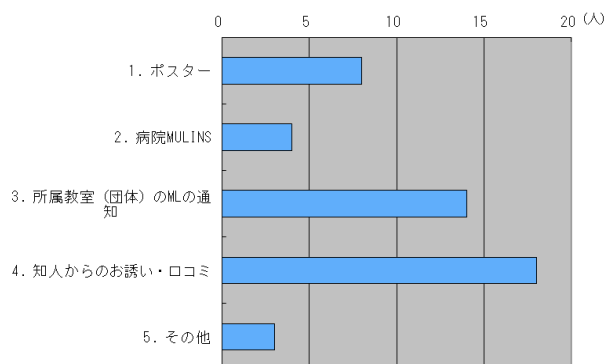
所属



A5) この会を何でお知りになりましたか (複数回答可)

会を知った媒体(複数回答可)	n	(%)
1. ポスター	8	17
2. 病院MULINS	4	8
3. 所属教室(団体)のMLの通知	14	29
4. 知人からのお誘い・口コミ	18	38
5. その他	3	6
無回答	1	2
計	48	

会を知った媒体 (複数回答可)

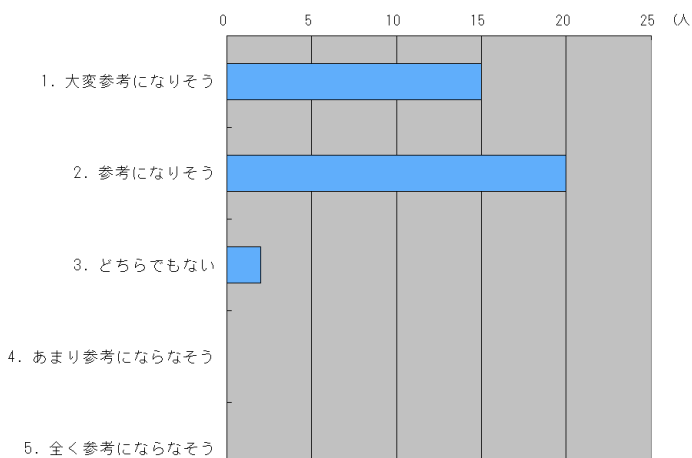


< 今回の企画の感想について >

B1) キャリア支援制度の紹介 (配布資料) について

キャリア支援制度の紹介	n	(%)
1. 大変参考になりそう	15	39
2. 参考になりそう	20	53
3. どちらでもない	2	5
4. あまり参考にならなそう	0	0
5. 全く参考にならなそう	0	0
無回答	1	3
計	38	

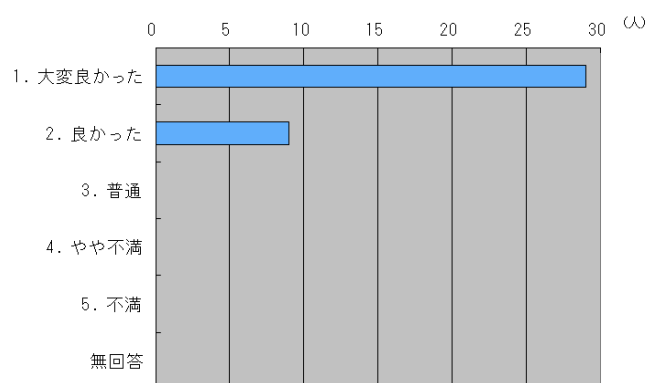
キャリア支援制度の紹介について



B2) 講演 (体験談) について

講演(体験談)	n	(%)
1. 大変良かった	29	76
2. 良かった	9	24
3. 普通	0	0
4. やや不満	0	0
5. 不満	0	0
無回答	0	0
計	38	

講演 (体験談) について



## 【自由回答（講演について、とくに良かった内容や、他に聞きたかった内容）】

### とくに良かった内容：

- ・ バラエティ様々なお話・活発な議論を伺えてよかったです。
- ・ 幅広いお話を伺うことが出来て非常にためになりました。
- ・ 基礎医学から臨床まで、ライフイベントも多様な演者が揃っていたのが良かった。
- ・ 以前より、更に話の幅が広く準備されていた。
- ・ 子育てだけでなく、介護や不妊治療などの経験も伺うことが出来、大変参考になった。
- ・ 実際に体験した方の話がきけ、また男性側の意見もきくことが出来たのでよかったです。
- ・ 個人の体験をもとに具体的なお話を伺えて、実態がよく分かりました。
- ・ 演者の方々は非常に努力されてきたと思います。非常に努力が必要という現実を感じました。
- ・ 介護については自分も両親が高齢であり、あらかじめ考えておく必要もあるかと思いました。
- ・ 皆さん、特に池本先生のお話が大変参考になりました。
- ・ 森先生のプレゼンテーションが、最初から最後まで惹きつけられるもので、大変面白かったです。女性差別の撤廃、制度改革、難しい問題が沢山あると思いました…
- ・ 森先生の講演は、鋭い内容をユーモアたっぷりに語っており、とても面白かった。
- ・ 森先生のお話が特に印象に残りました。「男女共同参画の本当の敵は根底にある女性蔑視」というお言葉が心に残りました。
- ・ あまり進んでいる印象のなかった東大の取り組みについて知れてよかった。

### 今後の課題：

- ・ 後半の講演で話が長くなった印象があった。
- ・ ライフイベントを振り返るのに、おひとりの持ち時間が短すぎるのではないかと感じました。
- ・ 奥深い話が多く、もっと長く聞きたかったです。
- ・ 皆さんの生活が非常に大変そうで、出来る気がしません…
- ・ このようなイベントは、男性の参加率を上げることが課題だと思います。
- ・ 育児中の方なども自宅から参加・後日参考にできるように、ウェブセミナーやスカイプ参加などはあるのでしょうか。

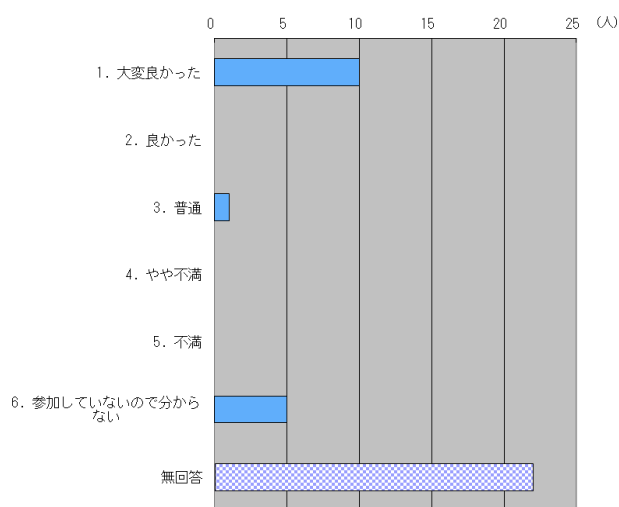
### 他に聞きたかった内容：

- ・ 病院・医学研究以外の他職種（会社、省庁等）でのケースを紹介できるとよいと思います。
- ・ 卒業と共に結婚をされた先生方のお話など。

B3) 第二部 (18時以降の自由歓談) について

第二部(18時以降の自由歓談)	n	(%)
1. 大変良かった	10	26
2. 良かった	0	0
3. 普通	1	3
4. やや不満	0	0
5. 不満	0	0
6. 参加していないので分からない	5	13
無回答	22	58
計	38	

第二部 (18時以降の自由歓談)



【そのように回答した理由 (自由回答)】

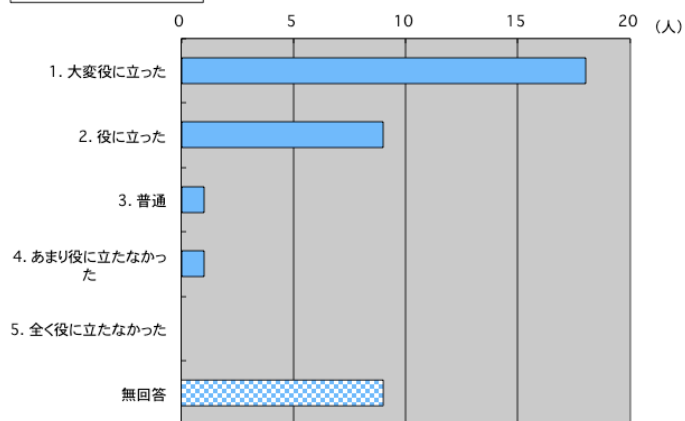
■ 「1. 大変良かった」と回答した方

- ・ 佐藤教授とおはなしできて、学ぶところが多かったです。
- ・ キャリアのみならず、各科について聞けてためになりました。
- ・ 個人的な質問や悩みなどについてもお話を聞いていただきました。

B4) この会は役に立ちましたか

この会は役に立ちましたか	n	(%)
1. 大変役に立った	14	37
2. 役に立った	6	16
3. 普通	1	3
4. あまり役に立たなかった	0	0
5. 全く役に立たなかった	0	0
無回答	17	45
計	38	

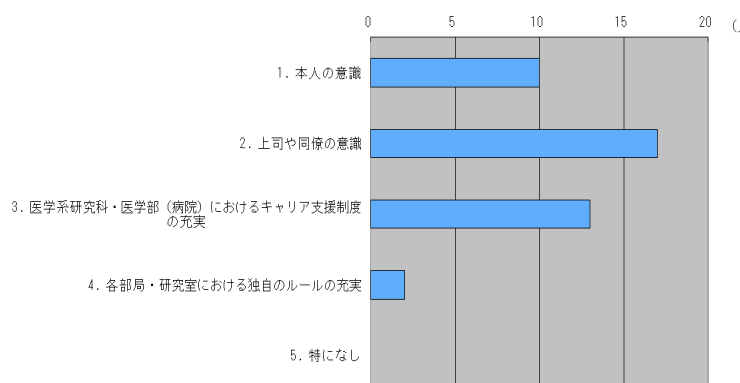
この会は役に立ちましたか



B5) この会に参加して、ライフイベントを乗り越えながらキャリアを形成していくためには、何が大切だとお感じになりましたか。(複数回答可)

ライフイベントを乗り越えながら キャリア形成をする上で大切なこと (複数回答可)	n	(%)
1. 本人の意識	10	24
2. 上司や同僚の意識	17	40
3. 医学系研究科・医学部(病院) におけるキャリア支援制度の充実	13	31
4. 各部署・研究室における独自の ルールの充実	2	5
5. 特になし	0	0
計	42	

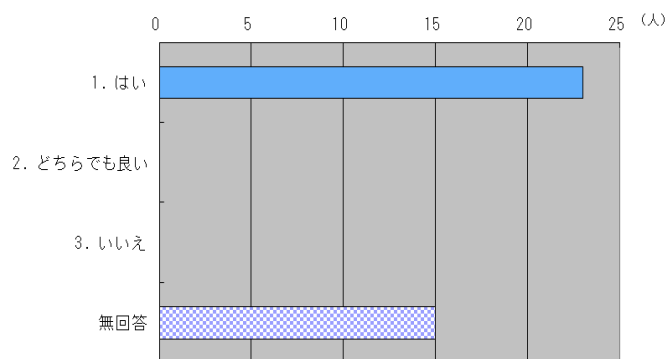
ライフイベントを乗り越えながらキャリア形成をする上で大切なこと  
(複数回答可)



B6) 各部署・研究室におけるキャリア支援体制について、情報の共有が出来た方が良いと思いますか。

キャリア支援情報の共有は必要か	n	(%)
1. はい	23	61
2. どちらでも良い	0	0
3. いいえ	0	0
無回答	15	39
計	38	

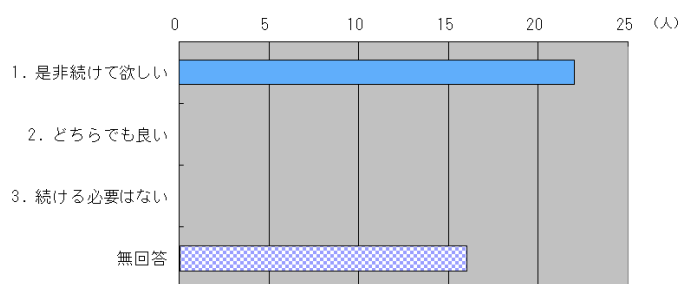
キャリア支援情報の共有は必要か



B7) 今後もこのような企画を続けて欲しいと思われませんか。

今後もこのような企画を	n	(%)
1. 是非続けて欲しい	22	58
2. どちらでも良い	0	0
3. 続ける必要はない	0	0
無回答	16	42
計	38	

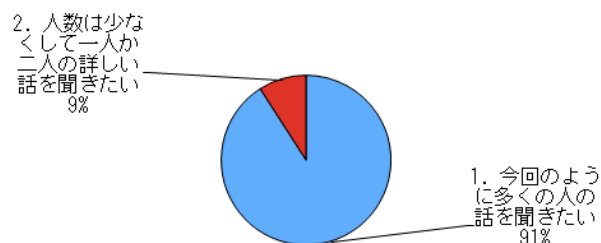
今後もこのような企画を



B8) 前問で1と回答された方は、次のどちらをご希望されますか。(n=28)

前問で1と回答された方は	n	(%)
1. 今回のように多くの人の話を聞きたい	20	91
2. 人数は少なくして一人か二人の詳しい話を聞きたい	2	9
計	22	

「是非続けて欲しい」と回答された方は (n=22)





B9) B7) で1と回答された方へ。その他、開催時期、内容などに御要望があればご自由にお書き下さい。

- ・ 継続しましょう！
- ・ 今のままでいいと思います。
- ・ タイムキーパーは演説者の近くの方が時間が見やすいと思います。
- ・ (演者数は) 3人が適切かと考えます。
- ・ ランチ会など気軽に参加できるものを定期的に。
- ・ 一年に数回の開催があれば良いと思います。
- ・ 17:00まで仕事なので17:00以降で。

C1) 今後、男女共同参画委員会で行って欲しい活動やご意見ご希望がありましたらご記入下さい。

- ・ 今日のような皆さんの体験談を聞ける機会があると良いです！今日はありがとうございました。
- ・ 男女共同参画キャリア支援≠子育て支援だということを踏まえて活動していただければと思います！ありがとうございました。
- ・ 家族ぐるみで参加できる季節の行事など：家族の支えがあって仕事・社会参加が出来ることの理解が深まると考えます。
- ・ 東大の有給・育休・産休取得率のデータとHPをリンクして頂ければ、仕事の継続しやすい環境整備につながるかと考えます。
- ・ より多くの先生方のお話をお聞きしたいです。また、将来自分もいつか演者になれる日が来ると良いです。